

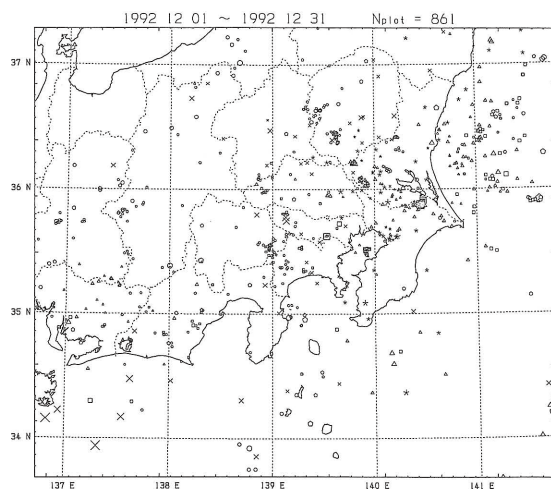
的な数値の把握に苦勞することが挙げられる。例えば、今回の例で言うと、国道の被害は北海道開発局、道道の被害は支庁、市町村道の被害は市町村役場に行かないと、分からないという状況であった。また、新聞に発表される被害統計は、北海道災害対策本部発表のも

ので、国や鉄道、ガス、電気、電話といった民間企業が管轄するものの被害統計は含まれていない。正しい被害の全体像の把握は、被害調査や被害の研究には欠かせない基礎データであるので、速やかなデータの公表の方法が確立されることが期待される。

12月の地震活動

マグニチュード (M) 4 以上の地震は全部で11個観測された。これらのうち5個は東海沖深さ360km以深に発生した地震である。その他の地震は、東京都西部の地震 (2日, 00時59分, 深さ116km, M4.2; 18日, 08時14分, 深さ123km, M4.1) 茨城県南西部の地震 (4日, 23時00分, 深さ56km, M4.7), 霞ヶ浦南部の地震 (9日, 16時13分, 深さ27km, M4.5), 東京都・神奈川県境の地震 (27日, 07時13分, 深さ26km, M4.2), 茨城県沖の地震 (31日, 12時03分, 深さ16km, M4.1) である。

東京湾では、M3.4を最大地震とする小規模な群発地震活動が発生し17個の微小地震が観測された。また、霞ヶ浦南部の地震 (M4.5) に伴って、前震1個余震118個が観測された。



国際交流

1.31~2.7 竹田 厚 (総括地球科学技術研究官) 第4回国際防災の10年科学技術委員会出席のため (インド)

1.4~2.4 東 久美子 (特別研究員) カナダ北極域の雪氷試料の化学分析と分析結果の解析のため (カナダ)
外国研究者の招聘

○アメリカ林野庁太平洋北西研究所

Sue Ferguson (スー・ファーガソン)

1.11~1.31 乾雪表層雪崩の発生予測とその衝撃力に関する研究のため

○中国科学院蘭州水河凍土研究所

張 万昌 (Zhong Wanchang)

1.11~3.31 先端分析機器による氷河コア試料分析研究のため

主な来訪者

1月13日 (水) 鉄道総合技術研究所

1月25日 (月) 首都圏直下の地震のモデル化に関する研究委員会

1月27日 (水) 千葉県消防協会香取支所研修会

編集兼 防災科学技術研究所

発行 〒305 茨城県つくば市天王台3-1

TEL (0298) 51-1611 (代)

(再生紙使用)